

26. 1. 29 日本子ども宣教局伝道学校

(2月学院福音化) シム・ジュウファン牧師

「イエス・キリストの名によって」(使 3:6)

使 3:6

すると、ペテロは言った。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」

今月の全体タイトルは、「イエス・キリストの名によって」です。

1 課 地上に初めて宣べ伝えられた御名 (使 3:6)

1. 使 3:1-12

2. 使 4:1-12

3. 使 6:1-7

三つの聖句が出ています。

皆さんも私もみんな、神様の御名をいただいた者です。

イザ 43:7

わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造した。これを形造り、また、これを造った。

「わたしの名で呼ばれる者」というのは、神様が名前をくださったということです。神様のみこころを現す器として造ったということです。ヘブルの人々にとって名前を与えるというのは、名前を与える者によって、名前を受ける者の存在とその内容が定まるという意味があります。私たちも肉的に子どもが生まれれば、その子がこういう人になったら良いという、その親の心と思いを込めて名前をつけるでしょう。創造主であり全能者である神様が、私たちに神様の名前を与えられたということは、神様の存在を現す、そのような器として造られたという意味を持っているのです。そのようにして、神様の栄光、力、すべてのことを現して生きることが、神様の栄光になる生活です。それゆえ、「わたしの名で呼ばれるすべての者、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造した」と言われるのです。

皆さんがよく知っている創世記1:26、27節のみことばは、どういう内容でしょうか。神様がご自分のかたちとして人を創造されたということです。それを創世記5章には、さらに説明されています。

創 5:1-2

1. これはアダムの歴史の記録である。神は、人を創造したとき、神の似姿として人を造り、
2. 男と女に彼らを創造された。彼らが創造された日に、神は彼らを祝福して、彼らの名を「人」と呼ばれた。

神様は神の似姿として男と女を創造されたのですが、彼らに名前を与えられました。それが「人」ということです。神様の名前を受けた者は、神様のかたちとして造られた者という意味です。もう一度説明しますが、「神様を現わす者、そういう器だ」ということです。私たちの生活を通して神様だけが現われなければならないのです。

そのことばの前提は何でしょうか。「私」ということがなくなるというのが前提でしょう。私は器で、私の中に入っていることが現れなければならないということです。

もう少し説明をします。創世記4章25、26節はこのように記録しています。

創 4:25-26

25 アダムは再び妻を知った。彼女は男の子を産み、その子をセツと名づけた。カインがアベルを殺したので、彼女は「神が、アベルの代わりに別の子孫を私に授けてくださいました」と言った。

26 セツにもまた、男の子が生まれた。セツは彼の名をエノシュと呼んだ。そのころ、人々は主の御名を呼ぶことを始めた。

アダムに息子が生まれたのですが、その名は「セツ」と名付けられました。セツは、アベルの代わりに与えられた息子です。カインと彼の子孫は契約的から外れた者の系譜を言い、アベルの代わりに与えられたセツと彼の子孫は、契約の中にいる者の系譜を言います。このセツは、イエス・キリストの模型です。そのセツに息子が生まれ、名前をエノシュと名付けました。そのときに、人々がようやく主の御名を呼ぶことを始めました。イエス様によって誕生する息子たち、すなわち私たちのことです。救われた神の子ども、その子が受けた名前が「エノシュ」です。そして彼らがまた、主の御名を呼ぶ者として生きるということで、神様を現す器として用いられるということです。

「エノシュ」という名前の意味を知っていますか。「弱い者、死ぬしかない者、壊れるしかない者」ということです。私が壊れてこそ、私の中におられる神様が現れるということです。私が壊れて、私の中におられる神様だけが現れるのが、神の子どもの人生なのです。そのような生き方を先にされた方が、イエス様です。神の御姿であられるのに、しもべの姿をとり、人間と同じようになられ、十字架の死にまで従われました。イエス様が、弱く、壊れるしかない、死ななければならないエノシュとして来られたのです。

このイエス様の御名「イエス」はどういう意味でしょうか。「ヤハウェ（神）が救われる」「ヤハウェ（神）が救い」という意味です。すなわち、イエス様は神様の御名を受けてこの地に来られたということです。

黙示録を見れば、また、イエス様の御名を神様のみことばであると表現をしています。

黙 19:11-13

11 また私は、天が開かれているのを見た。すると見よ、白い馬がいた。それに乗っている方は「確かだ、真実な方」と呼ばれ、義をもってさばき、戦いをされる。

12 その目は燃える炎のようであり、その頭には多くの王冠があり、ご自分のほかはだれも知らない名が記されていた。

13 その方は血に染まった衣をまとい、その名は「神のことば」と呼ばれていた。

この白馬に乗っている方は、イエス様です。その白い馬に乗っている方の名前が「神様のみことば」だということなのです。

ですから、イエスの御名を呼ぶとか、イエスの御名を伝えるということは、神様のみことばを、ありのまま、そのとおりに正しく伝えることを言います。人の考えや感情や時代の流れによって違うように解釈するのではなく、最初から今まで、そして、これからも変わらない真理のみことばを伝えなければならないのです。

イエス様が直接語られました。この聖書はわたしについて記していると。イエスはキリストで、主人であることが、聖書が語るまことの真理です。

使徒4:12にあるように

この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。

2課 宣教師 (使 6:1-7)

1. 講壇の宣教師 (牧会者)
2. 現場の宣教師 (一般信徒)
3. 次世代の宣教師 (レムナント)

宣教師は、真理のみことば、福音を伝える者です。みことばを根拠していない教えと証拠は、すべて神様の御名を汚すことです。出エジプト記20:7とレビ記19:12を見ましょう。

出 20:7

あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にしてはならない。主は、主の名をみだりに口にする者を罰せずにはおかない。

レビ 19:12

あなたがたは、わたしの名によって偽って誓ってはならない。そのようにして、あなたの神の名を汚してはならない。わたしは主である。

「主の名をみだりに口にしてはならない」「わたしの名を偽って誓うなら、神の名を汚すことだ」と言われています。それは、神様の名をむやみに呼んではならない、そのような意味ではなく、神様が与えられたみことばに加えたり、抜いたりすることは、主の御名を汚すことだと言われているのです。旧約の預言者たちも新約の使徒たちも、ほかのことは伝えていません。来られるメシヤ、来られたキリスト、イエス様のことだけを伝えたのです。

エペソ 2:20 と 1 コリント 3:11 を見ます。

エペ 2:20

使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。

使徒も預言者もみなイエス・キリストという土台の上、そのみことばだけを伝える者として生きたということです。

1 コリ 3:11

だれも、すでに据えられている土台以外の物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。

最初から据えられた土台、それはイエス・キリストしかありません。その土台以外に、ほかのことを据えてはなりません。

3課 初代教会の伝道運動の主役 (使 6:1-7)

1. 使 7:1-60

2. 使 8:4-8

3. 使 8:26-40

伝道運動の主役は、人ではなく神様です。使徒6章に教会の中で救済する働きのために問題が生じます。

使 6:2-4

2 そこで、十二人は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばを後回しにして、食卓のことに仕えるのは良くありません。

3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵に満ちた、評判の良い人たちを七人選びなさい。その人たちにこの務めを任せることにして、

4 私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します。」

2節に「神のみことばを後回しにして、食卓のことに仕えるのは良くありません」と言っています。聖書で語る救済や奉仕、このようなものなどは、単純に貧しく食事ができないものに行って食べさせてあげて、服のない者に服を持って行きなさいということではありません。その人々が食べなければならない糧は、神様のみことばですから、そのみことばで食べさせることを語っているのです。彼らに着せなければならないのはイエス・キリストの義の服です。「神のことばを後回しにして、食卓のことに仕える」と言っていますが、実際には、救済をして助けたでしょう。そのようなことが道具となって、それを通してイエス・キリストのみことばが伝えられなければならないということです。

それゆえ、御霊と知恵に満ちた、評判の良い人たちを七人を執事として立てます。救済や奉仕する程度なら、聖霊に満たされた人をあえて選ぶ必要はないでしょう。お金がある、そのことができる人を選べばよい

でしょう。実際に、そのように選ばれた者七人の名前が出てきます。「その人たちにこの務めを任せることにして、私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します。」と使徒が言っていますが、その人たちは教会で奉仕することだけして、私たちが伝道宣教するのだ、そういう話ではないでしょう。使徒たちがすべき働きも祈りとみことばの奉仕で、選ばれた七人の執事がすることも、祈りとみことばの働きなのです。

七人の中の代表二人は、ステパノとピリポです。残りの5人は、この後に使徒の働きのみことばには名前の記録が出てきていません。ステパノとピリポは代表的に名前が出ましたが、彼らは何をしたのでしょうか。使徒7章を見ると、ステパノは旧約聖書のみことばを人々に伝えて殉教します。7章は内容かなり長いですが、とても旧約全体をよく整理してある説教です。必ず読んでみてください。このようにステパノは旧約の神様のみことばを宣べ伝えて死にます。使徒8章でピリポはどんなことをしたのでしょうか。聖霊に導かれてサマリアに行って、また、異邦人のエチオピアの宦官に会います。そして、彼が読んでいる旧約聖書のイザヤ書を新約でイエス・キリストだと解いて説明をします。食卓のことを任されたのに、なぜ、このように出て行ってうろろしたのでしょうか。同じく、みことばを伝える者だということです。二人とも聖霊に満たされて、聖霊に導かれて、神様のみことばを伝える者として用いられたのです。それから、ピリポは使徒21章に名前がもう1度出てきます。パウロがカイサリアにあるピリポの家に行き、そこに滞在していました。みことばの働きに用いられる器として用いられたのです。伝道運動の主役は、神様で聖霊の神様です。

4課 ミッションの大転換（使9:15）

1. 使9:10、15
2. 使10:1-45
3. 使11:1-18
4. 使11:19-30
5. 使12:1-25

これは昨年十月ぐらいだと思いますが、パウロについて話した部分をよく参考にしてください。パウロはどのように召されたのでしょうか。

使9:15

しかし、主はアナニアに言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子らの前に運ぶ、わたしの選びの器です。」

パウロは、「わたしの名を運ぶ、わたしの選びの器」だと言われました。同じ話でしょう。神様が名を与え、その名を任せて用いられたのです。それゆえ、パウロの全体の働きを見れば、ほかの話をしたことは一つもありません。「イエスがキリストであり、主である」それだけを語りました。「私が自慢することは、イエスと十字架だけだ」このように、パウロをはじめとして、使徒の働きに記録されているすべての伝道者の生き方は、神様の御名を現わす器として用いられることでした。

最後に二か所だけ聖句を読みましょう。パウロはコリント教会にあてた手紙で重要なことを記しています。

I コリ 4:6

兄弟たち。私はあなたがたのために、私自身とアポロに当てはめて、以上のことを述べてきました。それは、私たちの例から、「書かれていることを越えない」ことをあなたがたが学ぶため、そして、一方にのみし、他方に反対して思い上がることをないようにするためです。

II コリ 2:17

私たちは、多くの人たちのように、神のことばに混ぜ物をして売ったりせず、誠実な者として、また神から遣わされた者として、神の御前でキリストにあって語るのです。

「書かれていることを越えない」パウロは、そのように働きをしていて、その模範になっていると言っています。そして、その当時の初代教会で、多くの人々がみことばにいろんな混ぜ物をしていたようです。パウロは、「誠実な者として、また神から遣わされた者として、神の御前でキリストにあって語る」と言っています。

レムナントに対するメッセージですが、大人たちが聞いてよく消化して、次世代によく伝えてくださるようお願いします。私はできるかぎり聖書に記録された内容そのままだけを伝えたいと思っています。その中心が皆さんと疎通できるように願います。

以上です